

第2回屋久島町観光基本計画策定委員会担当国会 議事録

日時	令和7年2月6日（水）14:00～17:00	
場所	屋久島町役場本庁 2階会議室	
参加者	屋久島町議会 屋久島町議会 屋久島観光協会 屋久島観光協会 屋久島町商工会 種子島久農業協同組合 屋久島漁業協同組合 屋久島森林組合 熊毛支庁屋久島事務所 屋久島町 産業振興課 屋久島町 産業振興課 屋久島町 政策推進課 榎 光徳 緒方 健太 満園 茂 荒木 政孝 鮫島 健 清岡 哲也 鮫島 洋一 寺田 久志 中村 美穂 川崎 勝也 日高 成 羽生 尚博	
内容	1. 開会 事務局： ただいまから、第2次屋久島町観光基本計画策定委員会担当国会の第2回会議を開会します。まず、事務局からの報告をいたします。前回、第1回目の会議において委嘱状の交付を行いました。今回が初めての参加となる委員の皆さまには、机上に委嘱状を配布いたしておりますので、ご確認の上、お受け取りくださいますようお願いいたします。 次に、追加資料等について説明いたします。・・・ 【追加資料について説明】 ・・・校区別と、資料9として観光動態調査・観光客向け自由意見の2種類です。以上、差し替え1点、追加配布2点の計3点をお配りしていますご確認をお願いします。 2. 協議事項 事務局： それでは、会次第2協議事項です。ここからの進行は屋久島町観光基本計画策定委員会設置要綱第7条第4項により、前回の会議で策定委員会委員長副町長に議長として指名された屋久島町産業振興課農政担当統括係長である日高成さんをお願いします。よろしくお願いします。 議長： 早速ですが、協議事項に移ります。事務局から協議の進行等で事前に諮っておくことがありましたらお願いします。	

事務局：

今回はアンケート結果等を踏まえて、計画策定に向けてのご意見やご提案等をいただくことになるかと思います。

進め方としましては、・・・

【 会議の進め方について説明】

・・・最後に(4)のその他の協議を行いたいと考えております。よろしくお願いします。

議長：

ただいま事務局から提案がありました。

まず、(1)の屋久島町観光の現状及び課題等についての協議・意見交換を行い、その後、(2)の第2次観光基本計画目次構成案についてと、(3)の町民ワークショップについて、を一括して協議、そして、最後に(4)のその他の協議ということです。

提案どおりの流れで進めてよろしいでしょうか。

(異議なし)

議長：

ありがとうございます。異議ないようですので、提案どおりの流れで進行いたします。事務局、説明をお願いします。

事務局：

(1) 屋久島町観光の現状及び課題等について説明いたします。

【 資料1 について説明 】

私からは以上です。策定支援事業者から補足の説明などありませんか。

策定支援事業者：

ありません。

事務局：

委員の皆様から説明においての確認事項ありませんか。

委員一同：

ありません。

事務局：

次に、②事業者アンケート調査結果です。

【 資料2 について説明 】

私からは以上です。策定支援事業者から補足の説明などありませんか。

策定支援事業者：

訂正と補足をさせてください。57 ページ、58 ページをご覧ください。数値の誤りではなく、グラフの表現についてです。この設問に関しては、単一回答ではなく、複数回答のため、百

分率の横グラフで表すことが適当ではない性質の数値なのですが、横棒 100%の表し方をしてしまったので、表現方法が不適当でした。後日、差し替えさせていただきます。

続いて、補足です。67 ページをご覧ください。横棒グラフの帯が、緑色とグレーで2本並んでおります。こちらは設問の指定では「あてはまるもの3つまで回答ください」としていましたが、かなり多くの方が上限を超過して3つ以上回答していました。それを無効票にしまうと、かなりの数のサンプル数・NN数が下がってしまうというところで、参考値として3つ以上のものを有効票にした場合と、それを除いて正しく3つだけ付けた方のものとを、それぞれカウントをしています。そのように見ていただければと思います。

同様のものが、70 ページにもございます。そちらに関しては、今の補足と加えて訂正がございます。考え方は同じですが、2種類の軸が混在しており、上の軸のラベルがグレーの帯に合わせた形で付いておりますので、緑の帯が若干合っておりません。例えば一番上の、町の自然や文化に理解を示し、ルールを守れる観光客が、49.4 となっておりますが、60～80%の軸の間にいます。こちらは49.4 という数値が間違っていたようです。正しい数値に差し替えさせていただきます。以上、訂正のお詫びと補足の解説でございます。

議長：

それでは、委員の皆さんから、説明においての確認事項ありませんか。

委員：

今ご説明にありました、今後の観光振興のために重要なことについてと、70 ページの、どのような観光客に来訪してほしいかについて質問です。3つまでの回答と、3つ以上の回答を含むものとあるものについてですが、この3つという数の根拠はあるのでしょうか。設問上で、3つと挙げたために3つにただけならば、本来見るべきは、3以上の回答を含むというところで、そちらを参考にした方がよいのではないのでしょうか。

策定支援事業者：

おっしゃるとおり3つという数に根拠はありません。強いて言えば、事務局がよりメリハリのあるグラフで濃淡を知りたかったというところで、「全て」ではなく、「任意の数」を指定しています。これは3でも5でも良かったのですが、今回は3を設定しました。ただし、グレーの帯のグラフに関しては、ルールを守っている人の回答と、守っていない人の回答が混在しているので、こちらを見るべきかといわれると、一概にそうとは言えません。あくまで2つをバランスよくとって見ていただければと思います。見づらい形になってしまい恐縮です。

委員：

3つまでと言わないでアンケートをとった方が、本来の結果がでるのかなと思うところでしたが、3つまで回答したものと、3つ以上の回答を含んだもののバイアスが出てしまっているというところですね。

策定支援事業者：

その通りです。そういった設計の経緯を踏まえてご覧いただければ幸いです。

議長：

他にありませんでしょうか。無いようですので、以上で、②事業者アンケート調査結果に

についての説明を終わります。

事務局：

次に、③観光に関するアンケート調査結果です。

【 資料 3 について説明 】

・・・参考にしていただければと思います。以上で説明を終わります。

事務局：

追加の説明としまして、本日、資料 9 として「観光動態調査（観光客向け）自由意見」をお配りしております。資料 9 は、先ほど説明しました港や空港で実施しております観光客を対象とした、観光に関するアンケート調査において、観光客の方に屋久島町の観光に関してアドバイスやご意見を伺っており、その回答いただいた内容（令和 6 年度分）を列挙しています。事業者アンケートにおいても、事業者の方に観光客からの意見や要望について聞き取りを行っているところですが、ここでは観光客の方に記載いただいた生の声をお伝えする資料としてお示ししております。

一応、見やすくなるよう分類等を行っておりますが、記載内容が分類と異なっていることもあるかとは思いますが、その辺は大目に見てくださるようお願いいたします。また、好意的な意見は実名での掲載としています。否定的な意見においての実名掲載はしていないつもりですが、掲載があった場合は修正等を行いたいと思いますので事務局へご連絡をお願いいたします。

町民アンケートや事業者アンケートは、町民や町内事業者が感じている本町の魅力や観光振興において重要なことを伺ったところであり、資料 9 については、屋久島に来ていただいた観光客や旅行者が感じる屋久島町の魅力や不便なこと、改善してほしいことについて伺った結果となっています。これら二つを把握、精査し、分析することで、町民と町内事業者、そして観光客や旅行者のそれぞれがウィンウィンとなる観光振興施策の取捨選択とその実施に努めることができると考えております。今後、観光基本計画の内容について、本格的に協議をいただくことになるかと思っておりますので、忌憚ないご意見をよろしく申し上げます。

以上で、③観光に関するアンケート調査結果についての説明を終わります。

議長：

何かご意見ございますか。

委員：

観光に関するアンケート調査結果のご説明ありがとうございました。77 ページについて質問です。こちらは空港や港で観光客に声を掛けての調査でしょうか。声の掛け方は何か指定しましたか。

事務局：

基本的に手の空いている方に関しては、極力声掛けを行い、その中で回答可能な方をお願いしています。

委員：

声を掛けやすい人に声を掛けたということですね。

事務局：

時間的に余裕がある人をお願いしています。

委員：

こちらの結果の、国外からの来訪が2%となっていますが、調査員が英語を話せなくて、外国人には声をかけづらかったというようなこともあるのでしょうか。

事務局：

基本的には日本人を中心に声をかけています。

委員：

分かりました。そうしますと、これは、正確に反映していないと言えないのでしょうか。専門家の意見を聞きたいです。今のような形でも、無作為となるのでしょうか。これは、バイアスがかかっているような気がします。どのように感じますか。

策定支援事業者：

国内客を対象にした無作為であればそこまで乖離がある表現ではないと思います。ただ、本当に来た人全てを対象にしている中での無作為という建付けにしているのであれば、ご指摘いただいたようにバイアスがかかってしまっているのも、無作為という表現は適当ではないのかなと思います。

ただ、それらは表現の正しさの話です。手法論としては、当然おっしゃるような、方法が一番良いというところではあります。多くの自治体で現実的に出来るやり方で、計画的にとっていき、どこかで折り合いをつけていくというのも事実としてありますので、一概に良い悪いという判断はなかなか我々のほうでも言い兼ねるところであります。

委員：

よく取られている手法なのでしょうか。

策定支援事業者：

そうです。凄く特別変だとか、凄く怠慢な方法ではありません。

委員：

他の自治体さんでも、この手法で概ね観光客の状況は表せているという印象は受けますか。

策定支援事業者：

大局的な流れをつかむという意味ではしっかり機能しているというケースが多いと感じます。その上で前回の委員会でも議論があったように、何かその自治体として特定のターゲットを考えたいとなれば、そこに向けてよりしっかりとそのターゲットからとれる方法でもう少し細かいアンケートなり、調査なりを実施するという建付けにするといういいなと思っています。大きな流れ、トレンドは取れていると考えています。

委員：

インバウンドの回収が少ないというのは、仕方ないかと思います。昨日、別の会議で、インバウンドの話をしたのですが、環境省がインバウンドについての集計を取っていると言っていました。内容は違うかもしれないのですが、皆さんに共有できればと思いました。インバウンドについて少ないとは思わず、気になりませんでした。せっかく最近とった調査があるので使ってはどうか。

事務局：

インバウンドの調査については、環境省が行うことは年度当初に連絡を受けており、連携を図ることとしていました。環境省から結果が送られてきものは、反映はしたいと思います。

議長：

他は、よろしいでしょうか。

続きまして、④観光基本計画（現計画）の評価について、説明をお願いします。

事務局：

資料 4、88 ページからになります。

【 資料 4・5 について説明 】

私からは以上です。策定支援事業者から補足の説明などありませんか。

策定支援事業者：

ありません。

事務局：

委員の皆さんから、説明においての確認事項ありませんか。よろしかったでしょうか。

以上で、⑤各種調査のまとめ及び(1)屋久島町観光の現状及び課題等についての説明を終わります。議長、協議の進行をよろしくお願いします。

議長：

1 ページの町民アンケートの回収率ですが、26.8%は町民全体の 8 %程度と説明がありました。26.8%の中で、否定的な意見が 50%、肯定的な 50%となった場合に、データとして、屋久島全体の割合として 50%ずつと考える見方をしているのかどうか、専門の方のご意見が聞きたいです。

策定支援事業者：

ご質問の確認ですが、町民アンケートの回収率に関するご質問でよろしかったでしょうか。

議長：

データの統計についてです。

策定支援事業者：

統計学上の優位性を担保する上で、総務省以下、各行政機関で用いている設定で、信頼度 95%、許容範囲プラスマイナス 5 パーセントというものがあります。それを担保するためには、母数が少ないと、それだけ必要数も少なくなるのですが、例えば、4 桁、5 桁、要は千、万等という母数になると、基本的には 380 以上いくらとって、そこまで結果に大きく影響を与えないということです。ですので、今回屋久島の町民アンケートとして母数は町民の人口になるかと思いますが、それを計算式に入れたとしても、恐らく 384 とか、その辺りを回収できれば、統計学上データとして優位なものだと言える扱いになると思います。今回、回収率としては 26.8%で、確かに他の自治体の回収率が一般的に 30%くらいのところからすると、やや低くはあるのですが、実数として 536 回収できていますので、全体の単純集計でわかっているデータに関しては一定の優位性が担保されているものと考えます。

一方でクロス集計に関しましては、クロスの各項目に、小文字の n = 数字と、付けております。この n 数が 380 を下回っていた場合、一番大きな属性でも、例えば百いくつとかとな

っておりますが、正直扱いについては参考値扱いといいますか、高い信頼度とは言えないか
と思います。全体の傾向としましては、属性別に見た時の捉え方に関しましては要注意とい
う扱いになるかと思います。以上です。

議長：

ありがとうございます。繰り返しになりますが、個人的には住民の方々の意見が一番大切
だと思います。結果として町民の方々の観光振興に賛成する方が 50%、反対する方が 50%と
いうデータがでていれば、屋久島全体の町民の方々の意見の傾向と考えてよろしいという理
解でよろしいでしょうか。

策定支援事業者：

差支えないと思います。

議長：

ありがとうございます。他に皆様から何かございますか。

委員：

92 ページの屋久島町観光基本計画、現計画の評価というところですが、ここが一番重要か
と思います。ここで、今までのものがどのようになってきたかということがわかりますが、
達成できなかった項目の方が多いです。その割に達成できなかった要因が、「他機関との連携
不足や役割分担が不明確であったこと」としかあがっておらず、言葉は悪いですが、反省材
料がこれしかないというのが問題だと思います。「他機関との連携や役割分担」、これさえ解
決すれば、概ね達成できるというような評価を担当課の観光町づくり課はしているのかなと
思うのですが、いかがお考えでしょうか。

事務局：

評価については、今ではそれぞれの目標について K P I とか重要視されるのですが、その
当時、これらの事業についてそういった目標設定がなされておらず、入込客数目標 35 万人と
いう数字を掲げてこういった事業を進めていきたいと思いますという計画の作り方をしていまし
た。計画担当課としまして各担当課に評価をお願いしたところ、各担当課としても、どう判
断、評価すればいいかわからないという意見をいただき、その意見ももっともだと感じたと
ころです。達成できなかった要因として、こういった理由しか書いてはいないですが、事業
を 80 個挙げたけれども、担当課としてしっかり計画に基づいて事業を実施してくださいねと
いうようなお願いをしていなかったところもあり、反省すべき点であると考えています。目
標や事業を掲げたからには、個別での目標設定とまではいかなくても、ちゃんと目標を設定
していただいてしっかりと引き継いで考えていただくことが大事だということを今回各担当
者をお願いして感じたところであり、また、基本計画の担当者として大事なところができて
いなかったと反省しているところです。

策定支援事業者：

今のところを補足させていただきます。今ご指摘がございました 92 ページをご覧ください。
こちらはあくまで概要資料ですが、全ての達成できなかった要因を列挙するわけにはい
かず、主なもの、重要なものとして体制のことを挙げさせていただきました。なぜかという
と、他の個別的な手法論の話よりも、大前提として、誰がどう評価していいのかが分からな

いというところが課題としてあると思っております。それが表れているのが、基本方針5、推進体制・広域連携というところで、体制面に仕組みの話の施策がぶら下がっています。90ページで、60番をご覧くださいとそちらに書かれておりますが、観光施策の評価・検証の実施ということで、こちらが評価として2で、あまり達成できなかったというところですが、結果としてはそうなのですが、こちらは濃い色付けをしているもので、今後より強化していきたいという扱いにしているものになります。まさに、今説明にあったように、その辺をしっかりと画一的な評価をできるような仕組み作りに至っていない部分があったのかと思います。そういった大きな反省が1つあり、上の概要の3つ目の中でも主な物として挙げているということです。当然これだけではないです。他にも個別の課題の要因を挙げていただいておりますが、主たるものとしてこれを挙げているという経緯です。

委員：

恐らくこれから話を進めていく上で、こちらの反省の部分や、評価を常に振り返りながら協議していくことになると思いますので、役場の皆さんにも、適宜、情報を共有していただけたらと思います。

委員：

アンケートについてですが、2,000人にアンケートをお願いした中、返信してくれた方が少ないです。その中で、基本計画を全く知らない人が62%となっています。先程、お話にあったように想定を屋久島全体の割合にすると、計画について知っている人が全町民の2割もないということです。また、達成率のところでも聞きたいのですが、交通基盤の整備が5というのはどのように設定したのでしょうか。これはどこからでた数字でしょうか。交通基盤の整備は指針が決まり、来年度から事業が始まるということです。恐らく約10年後でないと分からないと思います。これを5に評価したことが、今後観光計画を作っていく中でいかなるものかと感じました。62%の人が、観光計画を全然知らなかったということです。このアンケート結果を大事にしながら我々は意見を反映していかなければならないです。皆さん、PRなどをしていく時なんとなくしていると思いますが、意識するかしらないか、そこが一番問題だと思います。そういうなかで、どの段階のどのレベルで評価したのかわかりませんが、評価の中に厳しさを感じます。

委員：

質問です。前回の第1回会議は、公務出張で参加できず失礼しました。第1次の計画策定の時に観光協会におりまして、各種アンケート調査についても前回は殆どされていないと記憶しています。今回は、設問も多岐にわたっていますので非常に参考になると思います。これから基本計画を策定していくわけですが、色々と前回の反省を活かしていけるとと思います。

先程、インバウンドについても少ないということで、これは調査の方法に問題があったということにもなるのですが、環境省のそういった調査や、他の団体等で行っているアンケートも取り入れて参考にしていた方がよいかなと思っております。また、観光立町を宣言しているのですが、例えば屋久島は日本で初めて世界自然遺産も指定になり、冠をいただきましたが、自然遺産も今全国で5か所になり、どこも競争心があって良いものとなっています。他地域の動向もできるならば参考にして、取り入れていけると良いと思います。

事務局：

先程の評価につきましては、繰り返しになりますが、各担当者からどこどう比べればいいのかという質問を受けたところであり、意見のあった交通基盤につきましては、8年前に空港の事業化が決定していたのかどうか、していなかったとすれば、令和6年度から10年の計画がなされたということは、町民の方の要望や担当課、各議員さん方の努力があったことなどを考えると5という評価がなされても、何ら不思議はないと思っていますところであり、さらに、拡充ということを担当課は言っておりますので、今後10年、20年を見据えて頑張っていってくれると感じるところです。どこをもってというところもあるかとは思いますが、判断する担当課としても評価に苦慮しているということをご理解いただければと思います。

委員：

ありがとうございました。アンケートの結果、評価について責めるつもりで言ったわけはありません。ただ結果として、62%、実質2割しか計画を知らないということ。私も観光協会の立場として、この第一次の観光計画ができた時、最初はものすごく立派なものができ、観光に力を入れてくれるのだと喜んでいました。ですが、その次の年に、長期振興計画が作られた際、観光基本計画の内容が反映されなかったのです。屋久島はエコツーリズムの観光立町でいまいしょうと、高々に世間に発表しましたが、長期振興計画ではそういう単語も殆ど出てこず、少しは出てきたのでしょうか、私はそれが感じられなかったです。

このアンケート結果、一生懸命頑張ってくれて高く評価しますが、これを作った後の長期振興計画と照らし合わせたこの10年間の結果を精査して知らせしてほしいです。観光にずっと携わってきたので、町の当初予算とか興味を持って見てきたわけですが、僕の見方ではほとんど長期振興計画に反映されていない。ただ、観光基本計画は具体的なもの、こうしたいというものがないですね。具体的にどうするかということで、もう1段下の会議を設けましょうというのが当初の計画だったのですが、具体的に検討していく会議が結局できなくて、できたんだろうけど、活動されずそのままきいているというのがありますので、今度の観光基本計画も長期振興計画にどう反映していくかというのが大事なと思います。アンケート結果はすごく数は少ないにしても、インバウンドの意見も入れていければもっといいと思いますし、書き出してもらった観光客からの意見というのを、みんなに読んでもらってこの結果にプラスして今後反映していければよいのかなと感じます。

大変な仕事とは思いますが、第一次計画に基づいた長期振興計画と、どういう風に達成されたかということがわかるものがあれば、それは出して欲しいと思います。

事務局：

そこについては、検討したいと思います。

観光基本計画については、作成が逆になってしまっているところもあり、長期振興計画があって、それをどのように実現していくかということで観光基本計画を策定することができればいいんですが、逆になってしまっている。現在、今後10年間の計画に基づく総合戦略も見直しということで作っているところですので総合戦略との整合を図りながら、観光関連事業を観光基本計画に盛り込んでいければと思っています。今後会議を詰めてよりよいものを作っていきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

議長：

よろしいでしょうか。

委員：

行政の悪いところはP D C Aサイクルがなされていないところだと思っています。途中で検証していき再度アクションを起こしていくということに欠けているなど感じています。色々な会議で言うのですが、10年前に作った計画を次の計画が始まるからということで引っ張り出して次の計画を立てる、10年の中で検証を行いながらアップデートしていくことが大事だと思っていますし、別に観光基本計画が先とか、長期振興計画が先とかはどちらでも良いと思っています。どこに反映されてどういう事業を展開していったら、どういう結果を生んだかということを可視化しながら出してほしいと思います。

今回、パワポの資料なのだと思いますが、ものすごく資料も見づらいし、パワポに写しながらやってほしかったと思っているぐらいで、僕の目が悪いのもあるかもしれませんが、色も文字も全然見えないし、見づらいと思いました。何が言いたいかといいますと、しっかり定期的な検証をしながら、アップデートしながら事業をやっていく。時代も色々変わっていきますから変更すべき点は変更する、会議の中で委員の皆さんの意見を聞きながら進めていくことが大事かなと思うわけで、立てるだけの計画ならしなくていいと思っていますので、しっかりそこは、やっていっていただきたいと思います。

委員：

長期振興計画が先か観光基本計画が先か、どちらでもいいとおっしゃいましたが、それは有り得ないです。屋久島町では観光立町を宣言したわけですから、観光基本計画を作り長期振興計画に反映していくというのが当たり前の姿なのです。長期振興計画が全部出来ているのであれば我々が協議する必要はないです。この会の目的というのはそこにあると思うので、それに基づいて例えば農林水産業や六次産業が大事だといっているわけですから、観光ではこれをしまししょうとか、農林水産業でこれをしまししょうとするのが、私は当たり前の姿だと思っています。ようやく10年前に観光基本計画が出来たわけで、産業形態は議員さんたちが一番わかっていると思いますけど、観光業は10年、その前まではそうでもなかったですけど、これができてから観光客が入ってきて、産業形態で収入かれこれ大きなウエイトを占めるようになったと思っています。これに基づいて長期振興計画に反映する形を関係部署が頑張っていくということに意味があると思っています。皆さんどう思われますか。そうでないと作る意味がないと思います。

委員：

基本計画そのものの話になるのかもしれませんが、こんなに沢山の項目が必要なのでしょうか。いっぱい項目があることで重点項目が分散されてそこに力が行き渡らないという気がしました。10年間の計画だとすれば1年目は何を重点的にやる、2年目は何を重点的にやっていくというのを予算も含めて各課に浸透させるということも、重点プロジェクトの1つのやり方なのではないかと感じます。分散化されることで、評価する項目が何を評価すればいいのかわからないということは、実際にはできていることも本当にできていたのだろうかという疑心暗鬼も含めてあるからなかなか評価が3以上にならないのかなとも思いました。

作り方を批判するわけではないのですが、重点プロジェクトに評価3以上がないということだけを見ても、評価の項目があまりにも多すぎて、どこから手をつけていいのかというところが見えてない部分もあるのではないかと思います。この会に参加させていただいたからには、この評価を4に上げていくことをみんなで考えたいと思いますので、もう少し項目を絞れないものか、アンケートの結果は結果として、1年目はできなかったけど2年目は頑張ってみますとかというやり方もありだと思います。

議長：

本日は現状と課題、あともって次期計画の基本構成についてどういう形で進めるかの話があると思いますので、今後またご意見をいただければと思います。先ほどの委員からのPDCAサイクルの話でいえば、本日現状と課題を分析、チェックをして、順番は変わってきますが、プランの作成に向けて動いていくという形だと思いますので、PDCAサイクルを全く無視しているわけではないと思います。委員のご意見、当然、町での最上位計画は長期振興計画になりますので、観光基本計画に限らず、各課、色々な計画を作っています。それについては長期振興計画とリンクをしていくというのが当然だと思います。今までは作るタイミングが違ったり、担当が変わったりして上手くその連携が図られていないところが実際あると思います。私もこれまで色々な計画を作ってきました、そういったところがあったと思います。今後はそういったところも加味しながら新しい観光計画を作っていくということです。事務局はそれでよろしかったでしょう。

事務局：

はい。

委員：

議長がおっしゃったように、チェックしている段階度だと、そこはそれでいいですが、短期的にしっかりやっていくべきだと思います。しっかり刻みながらチェックしていくべきだということを指摘しておきたいです。

委員：

私が最初にPDCAのチェックの部分、それがこの評価の1文だけなのですかというところをお話しましたので、それに関してもう少しチェックという意味でしっかり深く考えていただいて、次のアクションにつなげていきたいなと思っております。それは役場だけではなく、ここにいるみんなで考えていくべきだと思います。

議長：

分かりました。そういう形で進めていくということでよろしいですか。

付け加えになりますが、達成できなかった要因としていろいろ書かれていますが、そもそも項目自体の設定に無理があったりしたということはなかったのでしょうか。達成できない難しいものを目標にしていたということなどはなかったのでしょうか。

事務局：

計画は時代ごとに作り方が違いますので、夢を描いて沢山事業を掲載して、そのうちどれか達成すれば良いかなという、これがそうだとは言いませんが、そういう計画の作り方をしていたこともあったかもしれません。

委員：

そうではないです。我々は、最初はこんなに沢山ではなくて10年ぐらいでこのようにしようという提案をしたのですが、あくまで観光基本計画なので、結局はビジョンという考え方でした。その上で、名前は忘れてしまいましたが、具体的な事を年に1回なのか半年に1回なのか、まとめる、そして精査するための組織を作るということでした。

委員：

観光推進会議

委員：

ですね。それが1回も開かれなかったということが精査できなかったということです。重点的にニーズに合ったことを会議で行っていくというのが基本計画であったのに、そこがなされていなかったということです。

第一次観光基本計画の中身はものすごく素晴らしいものができていると思っています。観光協会も30年後を見据えた長期ビジョンを作ろうということで、私も理事会に承認をもらって委員を集めて具体的に話を進めています。色々な人が集まって、若い人たちの意見も聞いて、しっかりしたビジョンがないと具体的なものできないのではないかとということで、観光協会はそのビジョンを作っていて、あと2回ぐらいの会議でまとまるだろうと思っています。それができたら具体的な3年、5年、10年のものを作ろうという考え方です。屋久島町の観光に関しては、そのように分けてやらないとできないのではないかと思います。長期振興計画は10年間ですので、それに合った具体的なものを観光計画に基づいて、会議で資料を使ってやっていけば、次の観光基本計画では達成率が分かると思いますし、住民からの肌で感じる考え方の2つが出てくるので、それらを使っていかないとうまくいかないと思います。そして、アンケートに答えた人達が現状をどう思っているか、アンケートというのは肌感覚で回答しているので、出てきたところは反省して見ていかなければいけないけれど、次にそれをどう生かしていくか、どう精査していくかということを前回の反省点として、それも併せて基本計画として作ってほしいです。今まで役場がやってきたことに対して反論も否定もするわけではなくて、そういうことができなかったからやろうにもやれないし、定期異動もあるわけですからそこをまとめられなかったというのが、長期振興計画にまともに反映されなかった1つの原因ではないかと思います。今後は、年に1回くらいチェックできるような体制ができるとよいと思います。

委員：

役場にお願いがあります。PDCAのチェックのことなのですが、今回の各項目1番から80番まで5段階評価しているんですけれども、その項目でやったこと、やったけれど結果が今どうなっているとか、まだ手がつけられていないのかなどの各項目を出していますので、それを具体的に何をやったか、何をやっていないのか、このようにしたら上手くいきましたというのを具体的に出していただくというのが、次の10年の計画策定には必要なのではないかと思います。80項目ありますので凄く大変とは思いますが、それをお願いしたいと思います。

議長：

いかがでしょうか。

事務局：

各担当から提出してもらった書類がありまして、ここではそのまとめた結果を載せていますので無いことはないです。それを出してみてもそれで良いか悪いか判断をいただくということでもよろしいでしょうか。

委員：

大丈夫です。例えば観光推進会議ができていないから評価しようにもできなかったという話になりましたけど、実は観光推進会議を作ろうとしていたけれど、結果作れなかった。なぜ作れなかったか、そもそも作る動きすらしていなかったかとかです。

事務局：

観光推進会議については、私が引き継いでお話を伺った中では、この計画が出来てすぐということではなかったのですが、何年か過ぎた後に作る準備をしていたということでした。準備をしている中で、コロナ禍に入ってしまったため、委員を選んでそれを稼働していくというところまで出来なかったという話は聞いています。何も動いていなかったというわけではなかったというところは、ご理解いただけたらと思います。

委員：

それはそれでいいです。反論したくなりますので。

最初にお願いしたのはそこで、例えば、32 番に公用車や観光施設、事業者等での電気自動車やエコカー導入の推進とありますが、これは 100%ではないですか。こういったものは、やったかやっていないかすぐに分かります。観光基本計画に対して行政ができた分、できなかった部分がすぐに分かると思うので、2 つ丸でいいのではないですか。それは聞き取りで各課にできると思うので、不必要な労力は求めませんが、最低限が分かればできているものが分かって、次はこれが足りなかったというのも分かるので、観光客の意見とか住民の意見とか大事だけど、町民の 62%はこの観光計画を知らないわけですから、住民にアンケートをとっても何も意味がないです。意味がないということはないけど、それをもとに我々委員が、意見を言うというのは、なかなか危険だと思います。分かる範囲でこういうのが出来ました、後のものは手が付けられていないということであれば、さっきあったように項目が多いということで、今後の計画に反映していけばよいと思います。現実的な基本計画を作ることで、この 10 年やっていったほうがよいと思います。役場を責めようと思っているわけではありません。

委員：

有馬課長がおっしゃっていましたが、観光推進会議の設立に向けてアクションもあったけれど、結局コロナ禍があってできなかったという、そのプロセスは非常に重要だと思います。次期観光基本計画でも、島内体制の構築ということでそういった団体を作ろうというのは引き続き行おうと思うので、前回の反省を生かして、次の 10 年でどう構築していくかが生きると思います。上手くいった、上手くいかない、途中で終わっているというのは開示していただいて、次の計画に盛り込んでいけるといいかなと思います。

議長：

他に何かございますか。特になさそうですので、次に、次第、(2)第2次観光基本計画目次構成案についてと、(3)町民ワークショップについて、事務局から説明をお願いします。

事務局：

(2)第2次観光基本計画目次構成案について説明いたします。

【資料6について説明】

私からは以上です。策定支援事業者から補足の説明などありませんか。

策定支援事業者：

ありません。

事務局：

無いようですので、以上で、(2)第2次観光基本計画目次構成案についての説明を終わります。

【資料7について説明】

私からは以上です。策定支援事業者から補足の説明などありませんか。

策定支援事業者：

ありません。

事務局：

無いようですので、以上で説明を終わります。ご意見等よろしくお願いします。

議長：

ただいまの事務局からの説明について、皆さまからご意見等、ございますでしょうか。

議長：

私から1点、99ページの具体的な取組は、ターゲットを明確化、例えばインバウンドとか富裕層とか明確にしてその方々の嗜好、どういうものを求めているのか、だからこういう取り組みが必要だという形で計画が作れないかと思ったところですが、いかがでしょうか。

策定支援事業者：

99ページの表組の、⑤来訪経験者アンケートと第4章のぶつかるところの箱を見ていただくと具体的な施策や事業を検討すると書いてあります。今、おっしゃっていただいたように具体的なターゲットがどういったニーズを持っているかということを、今後WEBアンケート等で調査します。観光推進計画ではありますが、観光町づくりの側面から、町としてどうあるべきというところに将来像を置きたいと思っておりますので、第3章では、そういったところを議論します。そして第4章で、それに向かってどう取り組んでいくか、その中で、こういったターゲット設定をして、その方達に来ていただいて、こういった行動をしていたかどうかということを展開しようと思っておりますので、そこに資する情報として今後WEBで、来訪経験者アンケートしていく予定でございます。まさに、ご指摘のところの視点は事務局としても持っております。

議長：

他に何かございますか。

委員：

ワークショップですが、2回に分けて実施で2回とも参加が条件はいいのですが、人数が20名程度ではあまりに少なすぎると思います。もう少し増やしてもいいと思います。どうせワークショップでまとめるわけですから、5人くらいのグループでも4グループにしかならないので、小さなワークショップでは同じような意見が出てきてしまうと思います。参加者もいろいろありますが、屋久島でもインバウンドの方も生活しており、就職していろいろなところで働いているので、そういった人たちも1～2名加えてほしいと思います。人数をもう少し増やし、回数も3～4回に増やしてほしいです。その方がいろいろな意見が反映されるのではないかと思います。あとは、ワークショップをいつの時点で行うのかというのが1つです。以上2つです。

策定支援事業者：

それぞれ回答させていただきます。まず、定員については、20名というところが絶対的な条件ではなく、当然集まれば嬉しい話です。設定根拠としては、弊社が以前、公共交通計画を策定した際、全校区でやろうとしたときに集客に苦勞したという経験を踏まえて、現実的な人数を設定させていただきましたが、これ以上に来ていただければ嬉しい話だと思っています。

続いて属性の話、インバウンドの方とかの話は貴重なご意見として検討したいです。回数を増やすというご意見については、逆質問のような形で恐縮ですが、我々としては今回の場を、将来像的な話とか、どういう観光地、屋久島であるべきか、というところを考える機会として、大体2回くらいでその辺りの議論というのは集約されてくるのかなと考えています。これを3回、4回としたときに、どういった時間の使い方をするか。3回、4回でどのようなことをやるか、最終的なゴールをどこにもっていくかというところで、もしイメージがあれば伺いたいです。最後の実施時期については記載しておりますとおり、今のところは新年度、4～6月頃に実施を考えています。質問を返すようで恐縮ですが、3回、4回とした時にどういう議論を想定するか、教えていただけたらと思います。

委員：

例えば2回だとして、1回の時間を何時間にするかによってテーマも決まっているわけで、あまりにも少ないのではないかと考えたのです。丸一日かけてするなら十分だとは思いますが、集中力など考えると2～3時間だと思いますので、それだと、ただワークショップをやりましたよという単なる出来事をやりましたよという形に終わってしまうのではないのでしょうか。要は、1回の時間をどれくらいにするかによって回数が変わってくるということです。何時間を見込んで2回と決めたのか。

策定支援事業者：

ありがとうございます。そうしましたら、1回あたりの時間も、議論し足りないということが起きないように十分な時間、とはいえ集中力がもたないような長時間にならない、いいあんばいで設計したいと思います。一方、回数を増やすと、同じ人に連続して4回参加していただくこともなかなか難しく、参加できる人が減る可能性がありますので、できれば2回、増やしたとしても3回ぐらいで検討したいです。参加人数も20名以上とれるようであれば、

多くの方から意見をもらえるような、間口の広げ方は再度検討して反映させていただきたい
と思います。以上で回答になっていますでしょうか。

委員：

やり方はいろいろあると思いますが、4回して全てが同じ人が集まらなくても、最低2回
は集まってくださいと。各4回とも同じ項目ではなくても、1回ごとにいろんなテーマを3
つ4つある程度出して、次の会議の時は違う項目をやっていたほうが効果的な気がします。

策定支援事業者：

その考え方でいいですよと、連続した4回ということではなくて、第1回目をいろいろなメ
ンバーでやって、第2回をまた別の色々なメンバーでやるという、要は議論の回数を増やす
のではなく、色々な人からの意見を聞けるようにしてほしいということがご意見の趣旨かな
と思いました。

委員：

はい。そうです。

策定支援事業者：

それは理解したうえで対応させていただきたいと思います。

委員：

町民ワークショップと住民にとったアンケートはどう違うのでしょうか。アンケートも将
来像を聞いていますし、町民ワークショップも同じようなことを聞くわけですが、それぞ
れの狙いはどうなっていますか。

策定支援事業者：

アンケートのほうがより統計的な量的な調査として、先程議論にありましたように町民の
総意として扱うものとして、ただ、例えば将来像は、我々で設定した選択肢のうち強いて言
えばこれかなという選択だだと思いますので、もう少しより生の声で挙げていただくのがワー
クショップだと思います。

委員：

ワークショップの前提には、このアンケート結果があるということでしょうか。

策定支援事業者：

その通りです。たたき台があった方が議論は活発化すると思いますので、ゼロベースで将
来像を語っていただくというよりも、たたき台としてアンケート結果、概要をお示ししてそ
れをベースに検討をしてもらうことを想定しています。

委員：

ワークショップで描かれた将来像は、観光基本計画の中でのウェイトはどのようになりま
すか。

策定支援事業者：

99 ページをご覧ください。こちらにワークショップも入れていけば見やすかったですね。
⑥の現行計画の評価・検証までしかありませんが、例えばここに、⑦ワークショップとあつた
とするならば、その反映先は、3章の将来像や基本方針等の位置に反映してくる内容のワー
クショップになると思います。④町民アンケートの2章、3章に反映されてくるより定性的

な部分を強化したものとして計画書には反映されてくると想定しています。

委員：

かなり重要なウェイトを占めている訳ですね。

策定支援事業者：

そうです。

委員：

そうすると先ほど、委員がおっしゃったように2回では足りないような気がします。委員がおっしゃったのは観光協会でもビジョン策定をしているのですが、5回も会議を時間まで議論しているのですが、それでも足りず、追加したりとか、ラインでも常にやったりとかというふうに、観光のプロ達が考えてそのようになっているので、観光に直接携わっていない方々が、ただの2回でビジョンを作り上げるのは相当大変なんじゃないかということを、多分おっしゃっているのかなと思います。

委員：

そうです。

策定支援事業者：

それについては少し誤解があるようです。反映先として、第3章や、第4章の中の将来像となるだろうとお話しましたが、逆説的に言いますと、将来像を決める材料はそれだけということではありません。そこに確かに反映されるのですが、作るための作業の素材としてあるのが町民アンケート、ワークショップの結果だけから将来像を導くわけではなく、当然行政としても町の意向や今後の予定もありますから、それを広く踏まえた上で、そこに観光客のニーズも載せた上で、すり合わせたものが将来像になってくると思います。おっしゃるように、町民の意思だけで将来像を描くのであれば到底2回では足りないと思いますが、一材料ですので、各種団体のバランスを考えるとこの辺りが妥当なラインかなと思います。

委員：

あくまで一材料としてということですね。

策定支援事業者：

はいそうです。

議長：

他に何かご意見ございますか。

委員：

ワークショップの対象者ですが、青年団、婦人会、その付近が最近はいないのかもしれませんが、そこの代表を出してもらって、将来ですから、高校生が入っているからいいんですけど、若者層を入れた会議というのが屋久島町は少ない気がしますので、そこを入れてもらいたいです。自治会長さんはどの会議でも出てきていて、その方たちがいろんな協議をして屋久島町は何十年も変わらないわけです。経験のある大事な意見ですが、私の歳でこんなことを言える立場ではないですが、もう少し若い層を入れて将来の基本計画を立てていただきたいです。そして、充て職ではなくて、その事業所の現場で頑張っている人を設定してほしいです。そうでなければワークショップを必要なくして、このメンバーで1～2回ざっく

ばらんなワークショップでもいいと思います。それだとこのメンバーだけなので、もう少し広く公募してのワークショップは賛成ですけど、2回するぐらいだったら開かない方がよかったです。

策定支援事業者：

若手の参加はまさにそうあるべき、そうあってほしいです。初手としては、広く公募しますが、そこで若手の方の数が担保できなければ、今アイデアをいただいたように1本釣りではないですが、お声掛けをしていくというのがありかなと思います。

その辺りで重要視しているのは、建付けにも工夫はしておりますが、我々もワークショップを数多くやってきておりますが、どうしても皆さんポジショントークになってしまいがちで、なかなかキャッチボールが難しくなっています。大体のワークショップがドッチボールになって、皆さん好き勝手に一方的に意見をぶつけ合って終わっている。ですので、建設的に積み上げることはハードルが高いものと思っております。そのため、属性で区切って、高校生であれば高校生のテーブル、子育て世代であれば子育て世代のテーブルで、ある程度主要施策や考えが近い人の中で、論を組み立てていただくほうが建設的かなと考えております。特に若手の方は、あまり大きくない自治体の規模であれば、上の方の目を気にして発言に消極的になってしまうところもあるでしょうから、若手は若手同士で活発に気兼ね、忖度することなく意見が言えるようにとか、そういう懸念を含めて属性別にテーブルを組むように設計しています。

議長：

そうしましたら、対象者、回数、内容等については、事務局と精査をしていただくということによろしいでしょうか。

他に何かご意見等ございますか。

(「ありません。」という者あり)

無いようですので、(4) その他について、事務局から説明をお願いいたします。

(4) その他

事務局：

協議事項ではないのですが、WEBアンケート等の調査について策定支援事業者の方から報告させていただきます。

策定支援事業者：

申し訳ない部分があるお話になりますが、先程、一部議論の中でもでました、今後予定しているWEBでの来訪者を対象としたアンケートについて、調査会社と調整を進めていたところでした。当初は国籍問わず、直近で屋久島町を訪れたことがある方という対象の取り方で設定を進めていたのですが、WEB調査会社が試算したところ、インバウンドのサンプルが見込めないのではないかとということでした。そこに対してわざわざ英語表記や、第2外国語の翻訳等を行うことが、なかなか現実的ではなさそうだということで、対象者を国内客に限定する形にせざるを得ないという方向で進めていることを報告させていただきます。

議長：

ありがとうございます。今の報告について、何かございますか。

(「ありません。」という者あり)

特に無いようですので、これで2番目の協議事項をすべて終わります。

活発なご意見をいただき、協議進行にご協力いただき誠にありがとうございました。

会議の進行を事務局にお返しします。

3. その他

事務局：

続きまして、会次第3その他です。

事務局から、次回の会議日程についてご連絡させていただきます。

まず、次回の第3回会議についてです。

第3回目の会議は、会議資料等では5月末頃としていたところですが、5月末日が出納閉鎖ということもありますので、若干時期を後ろ倒しして令和7年6月4日水曜日、午後2時からと考えております。場所は本日と同じ役場本庁舎の2階会議室です。委員の皆さまにおかれましては、ご多用とは存じますがご出席くださいますようお願いいたします。

事務局からは以上です。委員の皆さまから何かございませんでしょうか。

議長：

6月4日ですが、別の会議が入っておりまして参加できないのですが、可能な限り参加したいと思いますが、参加できなかった時はどなたかに議長をお願いしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

事務局：

他にございませんでしょうか。(意見等なし)

4. 閉会

事務局：

以上をもちまして、第2次屋久島町観光基本計画策定委員会担当者の第2回目の会議を終了させていただきます。本日はありがとうございました。